

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標（令和6年度策定）	令和6年度の目標	取り組みの内容		校内評価		学校関係者評価（3月6日実施）	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程学習指導	① 基礎学力の定着と大学進学を視野に入れた授業を実践する。 ② 主体的、自主的に学習に取り組む態度の醸成、伸長をめざした授業改善を図る。	① 今年度で3年生まで実施された新たな教育課程の編成が大学進学へ十分対応できたものにする。 ② 学習コンテンツの活用により、自主学習のきっかけとなり授業改善により自律的学習を図る。	① 科目選択の際に生徒との面談から要望等を聞き取り進路実現につながる教育課程の編成にする。 ② 活用法の研修会の実施、宿題の配信を行い授業改善につなげる。	① 生徒面談からの要望、授業評価アンケートの内容。 ② 生徒が学習コンテンツをしっかりと利用できているか。	① 新教育課程の3年における理系、文系コースを一部変更したが概ね生徒からは評価されていた。 ② 学習動画コンテンツ操作説明会を教職員向けに実施し、課題配信や課題の達成状況の確認方法などを周知した。また、活用率 50%～60%（3年生を含む）であった。	① 新教育課程での入試科目の内容に3年における理系選択が適しているか検証していく必要がある。 ② 教室内でWi-Fi がうまくつながらない事例がまだあり改善が必要。3年生の活用率を上げるため面接動画や小論文動画などを活用させたい。	・新教育課程に関する総合的な振り返りが行われていた。課題として理系選択の適宜性の検証が挙げられた。 ・学習動画コンテンツの利用が50～60%とのことだが、生徒の学習意欲を高めるコンテンツの選択などさらなる有効な活用が進むとよい。 ・スタディサプリは宿題の提出のやり取りなどができて便利のようだが、様々な学習場面での活用が求められる。	・新教育課程における文理のコース分け等、成果を上げることができた。 ・学習コンテンツの活用をさらに進める必要がある。	・電子黒板の効果的な利用についてさらに検討を進めていく。 ・ICT活用が目的とにならないよう取り組みを検証し、進路との関係も含め、全職員に向け活用事例などの共有などを充実させていく。
2	生徒指導・支援	① SCやSSWと連携した能動的・組織的な生徒支援体制及び教育相談体制を確立するとともに、教員の意識改革を図り多様性を認識し認め合う雰囲気を醸成する。 ② 部活動の更なる活性化を図り、挨拶や素直な心を基盤とした人間関係形成力や自己表現力を育成する。	① 生徒のニーズに答えることができる支援体制や教育相談体制の確立に向け、教員相互の連携や外部機関との連携を積極的に行う。 ② 社会性や豊かな心を育むため、更なる部活動の活性化を図る。	① 日常の生徒対応やサポートドックの活用により、生徒の抱える課題に対する支援を早期に実行する。 ② 部活動を取りまく制度を整備し、主体的に部活動に取り組める環境を整える。	① 教育相談コーディネーターを中心に、円滑な生徒支援、教育相談を行うことができたか。 ② 部活動に主体的に取り組める環境を整えることができたか。	① サポートドックの結果により見出した生徒が抱える課題に対しSCやSSWと連携しながら対応した。 ② 顧問間で調整を図り、活動できる環境を整えることができた。	① 潜在的に課題を抱える生徒に対してのアプローチについて、継続的に検討を行う。 ② 今後は顧問の確保と調整が課題である。	・サポートドックの実施とSC、SSWの連携により一定の効果があつたことが認められる。教員やSC、SSWの働き掛けにより、生徒がひとりで悩みを抱えるのではなく、他者に気持ちを出せるようになることは大切である。 ・部活動加入率が70%ということだが、今後も活気のある活動を期待する。 ・生徒の活躍の場をHPで宣伝してあげてほしい。	・サポートドックの効率的な実施や、SC、SSWとの連携による適切な生徒対応を行うことができた。しかし、潜在的に課題を抱える生徒が幾許か存在しているとも考える。 ・各部活動で大会実績において優秀な成績を残すことができ、成果を上げたと考えている。	・サポートドックの実施時期や質問項目の精査を行うとともに、プッシュ型面談の対象生徒についてSCやSSWと連携しながら検討していく。 ・部活動の実績を外部へPRすることで部活動加入率につなげたい。また、顧問体制も負担にならないよう工夫していく。

